

半群における或る非極大 Order に関する
Arithmetic と正則集合の分解について

山口大 理 村田憲太郎

半群の Asano order は、環のその一般化として考
えられ、そのに関する研究がなされている ([1], [3] 等). いま E を半
群の bounded order とし, E に含まれる E と対称系 order を
 σ とする. σ 両側 ideal の modular closure を考
え, [2] に基づいて, σ の E に関する conductor を定義し, その
に対する regular ideal およびその拡張としての正則集合を導
入してその一意分解をのべる.

§1 Modular Closure

σ を半群 S の bounded order とする. σ 両側 ideal
を単に σ -ideal とする. σ -ideal 全体からその自身への写
像 $\alpha \mapsto \alpha'$ が, 包含, 単調, 中等で, さらに $\sigma' = \sigma$,
 $\alpha' \beta' \subseteq (\alpha \beta)'$ をみたすものとする. $\alpha' = \alpha$ なる ideal α
を closed ideal 又は c-ideal とする. c-ideal の全体
が modular 束をなすとき, α を modular closure とする.

たゞ之は、 σ の exchange property があれば、 ν はこのように closure である。(トイフ文字は σ -ideal である)

$$\nu \subseteq (\sigma \cup b)', \nu \not\subseteq \sigma \Rightarrow \exists \mathcal{A} \subseteq b' \text{ s.t. } (\sigma \cup \nu)' = (\sigma \cup \mathcal{A})'$$

いま $\sigma_1, \sigma_2, b \in (\sigma_1 \cup b)' = (\sigma_2 \cup b)', \sigma_1 \not\subseteq \sigma_2$ なる σ -ideal である。 $c \notin \sigma_1, c \in \sigma_2$ なる元 $c \in E$ がある。 σ が bounded であるから $c \in \nu, \nu \subseteq (\sigma_1 \cup b)', \nu \subseteq \sigma_2$ なる $\nu \in E$ であることが出来る。 たゞ之は、 $\gamma \in \sigma_2 \cap b \cap \sigma$ なる正則元 $\gamma \in E$ として $\nu = (\sigma \cup \sigma \cup \sigma \gamma \sigma)'$ である。 $\nu \not\subseteq \sigma_1$ であるから $(\sigma_1 \cup \nu)' = (\sigma_1 \cup \mathcal{A})', \mathcal{A} \subseteq b'$ なる \mathcal{A} が存在する。 $\mathcal{A} \subseteq (\sigma_1 \cup \nu)' \subseteq (\sigma_1 \cup \sigma_2)' = \sigma_2$ であるから、 $\mathcal{A} \subseteq \sigma_2 \cap b'$ である。 $\mathcal{A} \not\subseteq \sigma_1 \cap b'$ は自明である。 よつて ν' は modular closure である。

たゞ之は、 R は環とし、 $\sigma \in R$ の環とし ν の order とする。 半群とし ν の σ 両側 ideal α に対して、 α から生成される環とし ν の ideal α' とすれば、 ν は exchange property である。 この他に各種の例を挙げることが出来る。

§2 Regular Ideal

$E \in S$ の bounded maximal order とする。 $\sigma \in E$ に含まれる S の order ν $\lambda \in \mu \subseteq \sigma$ なる正則元 λ がある μ が存在するものとする。 このとき、 E 両側 ideal は σ 両側

ideal である。

さて, σ の modular closure σ $E' = E$ とするものとする。 $f = \{x \in S \mid ExE \subseteq \sigma\}$ は σ に含まれる closed E -ideal (c- E -ideal) として unique maximal である。これは σ の E に関する conductor である。これはついで、つぎの補題が成り立つ。

補題 1. $\sigma \in (\sigma \cup f)' = \sigma$ なる σ -ideal とすれば, $(E\sigma E)'$ は c- E -ideal σ $(E\sigma E)' = (E\sigma)' = (\sigma E)'$, $(E\sigma E \cup f)' = E$, $(E\sigma E \cap \sigma)' = \sigma'$ が成り立つ。逆に $\sigma \in (\sigma \cup f)' = E$ なる E -ideal とすれば, $\sigma \cap \sigma = \sigma$ は σ -ideal σ , $((\sigma \cap \sigma) \cup f)' = \sigma$, $(E(\sigma \cap \sigma)E)' = \sigma'$ が成り立つ。

$(\sigma \cup f)' = \sigma$ なる c- σ -ideal σ の全体 \mathbb{K} は包含関係と積 $(\sigma\tau)'$ ($\sigma, \tau \in \mathbb{K}$) によって束縛群である。また $(\sigma \cup f)' = E$ なる c- E -ideal σ の全体 \mathbb{L} についても同様で, $\varphi: \mathbb{K} \rightarrow \mathbb{L}; \sigma \mapsto \varphi(\sigma) = (E\sigma E)'$ は束縛群としての同型対応を与え, φ によって素 ideal に素 ideal が対応する。

c- σ -ideal σ に対して $(\sigma\sigma)' \in \mathbb{K}$ なる $\nu \in \mathbb{K}$ が存在するとき, $\sigma \in$ regular ideal である。この定義は $(\sigma\nu)' \in \mathbb{K}$ なる $\nu \in \mathbb{K}$ が存在するときとしてもよい。これはつぎ

の補題によつて保証される。

補題 2. $\sigma \in \text{regular ideal}$ とする。 $b\sigma \subseteq \sigma$ なる任意の $b \in K$ に対して $(\sigma b)' \in K$, $(b\sigma)' \in K$ である。

2つの σ -ideal σ, b の左右の residual をそれぞれ $\sigma/b = \{x \in \mathcal{S} \mid x b \subseteq \sigma\}$, $b \backslash \sigma = \{x \in \mathcal{S} \mid b x \subseteq \sigma\}$ によつて定める。

いま σ, b 共に regular ideal とする。 $(\nu\sigma)', (\nu b)' \in K$ なる $\nu, \nu \in K$ とし、 $(\sigma\nu)', (b\nu)' \in K$ なる $b(\nu\sigma) \subseteq \sigma$ なる $\nu\nu\sigma \subseteq b \backslash \sigma$ 。 したがつて

$$\nu b(\nu\sigma)\nu \subseteq \nu b(b \backslash \sigma)\nu \subseteq \nu\sigma\nu \subseteq \sigma.$$

よつて $(\nu b\nu\sigma\nu)' \in K$ であるから $(\nu b(b \backslash \sigma)\nu)' \in K$ によつて $((b \backslash \sigma)\nu \cdot \nu b)' \in K$ となり $b \backslash \sigma$ が regular である。 同様に σ/b も regular である。 (1) より

補題 3. regular ideal の全体 \mathbb{T} は residuated lattice を作る。 $\sigma/\sigma = \sigma \backslash \sigma = \{x \in \mathcal{S} \mid \sigma x \sigma \subseteq \sigma\} = \sigma^{-1}$ が成り立つ。

よつて、 $\sigma \in \mathbb{T}$ に対しても $\sigma^* = (\sigma^{-1})^{-1}$ とする。 $\sigma^* \in \mathbb{T}$ 。 したがつて $\sigma \in K$ ならば $\sigma^* \in K$ である。 $\sigma^* = \sigma$ なる σ を $*$ -closed ideal とし、 $\sigma \sim b$ と $\sigma^* = b^*$ によつて定義する。 このとき $\mathbb{G} = \mathbb{T}/\sim$ は自然の積と順序 $(\sigma) \leq (b) \iff \sigma^* \subseteq b^*$ によつて条件完備半束群を作る。

ここは $C(\alpha)$ は α を含む類を示す。よって G は abel 群で、強分配束を持つ。 $\alpha \in K$ のとき、 $\alpha \sim \alpha$ なる α は K の元である。このとき $C(\alpha)$ は 整 という。

一般に modular 束群において、2つの束高 a/c と b/d が変換的であるとは、 $b \leq a$ とし、 $a^{-1}c = (c \cup b)^{-1}c = (c^{-1} \cap b^{-1})c = c \cap b^{-1}c = b^{-1}(c \cap b) = b^{-1}d$ であるから、 a/c と b/d が射影的のとき $a^{-1}c = b^{-1}d$ が成り立つ。そこで、このことと modular 束における JHS 定理を用いて、 G の整元に関する細分定理、また $\alpha^* = \alpha$ なる K 元の細分定理を求めることができる。 [1], [5].

§3. 半群の Asano Order に含まれる α と対等 Order に属する正則集合の分解

この節ではつぎの3つの条件を設定する。

- (1) 整なる c - E -ideal に関して極大条件が成立する。
- (2) 素なる c - E -ideal はすべて極大である。
- (3) 素なる c - E -ideal は $*$ -closed ideal を含む。

このとき " \sim " は " $=$ " と取り、 E は Asano order とする。

[1]. この場合 \mathbb{L} 元の素 ideal α の分解は \mathbb{L} の範囲内で得られるから、 $\varphi^{-1}: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R} \cap \mathbb{C}$ によって K 元の素 ideal 分解が K の範囲内で得られる。よってつぎが成り立つ。

群 $G (= \mathbb{T})$ は素子 regular ideal を生成元とする無限巡回群の制限直積である。つまり各 regular ideal α は、積の可換性を無視して、素子 regular ideal の中積 (正, 負) とし一意的に表わされる:

$$\alpha = \left(\prod_{p \in \mathbb{P}} p^{\sigma_p(\alpha)} \right)'$$

ここで p は素子 regular ideal の全体 \mathbb{P} を示し, $\sigma_p(\alpha)$ は有理整数で, ほとんどの p について $\sigma_p(\alpha) = 0$ である。この小論の目的は, この分解定理の拡張である。

S の部分集合 m が 正則素の両側集合 (略して 正則集合) とは, 次の2つの条件をみたすときである。

(1) m の各元 α に対して $\alpha \in \alpha$, $\alpha \subseteq m$ なる regular ideal α が存在する。

(2) $\alpha, \beta \in m$ に含まれる任意の regular ideal とすれば $(\alpha \cup \beta)'$ も m に含まれる。

さて $\sigma_p(m) = \inf \{ \sigma_p(\alpha) \mid \alpha \subseteq m, \alpha: \text{regular} \}$ によって $\sigma_p(m)$ を定義する。いま $\sigma: \mathbb{P} \rightarrow \mathbb{Z} \cup \{-\infty\}$ なる map でほとんどの p について $\sigma(p) \leq 0$ とするよう σ の全体を \mathcal{S} とする。 $\sigma_p(m) \in \sigma_m(p)$ と書えがごとく, 三小 \mathbb{P} から $\mathbb{Z} \cup \{-\infty\}$ への map とみると $\sigma_m \in \mathcal{S}$ である。各 $p \in \mathbb{P}$ を素点とし v vector $(\dots, \sigma(p), \dots)$

の全体を V とし, $\text{Min}(\sigma(p), \tau(p)), \text{Max}(\sigma(p), \tau(p))$ を p 座標にまつ vector とし, それぞれ, $\text{vector}(\dots, \sigma(p), \dots)$ と $(\dots, \tau(p), \dots)$ の結, 交 とするに; 二小と通常の加法に同じく, V は $\mathbb{Z} \cup \{-\infty\}$ 上の束半群となる。

つまり, 2つの正則集合 m_1 と m_2 の積を

$$m_1 \cdot m_2 = \bigcup \{(\alpha_1, \alpha_2) \mid \alpha_i \in m_i\}$$

よって定義されるに; すべての正則集合 m は, 包含関係と二の積に同じく束半群となる。

補題 4. 2つの束半群 m と V は map

$$f: m \mapsto f(m) = (\dots, \sigma_m(p), \dots)$$

によつて, 束半群としての型である。

任意の $m \in m$ によつて $f(m)$ を3つの vector の和に分ける:

$$f(m) = v_+(m) + v_-(m) + v_{-\infty}(m).$$

ここに $v_+, v_-, v_{-\infty}$ はそれぞれ成分から $\sigma_m(p) \geq 0$, $\sigma_m(p) \leq 0$ ($\sigma_m(p) \neq -\infty$), $\sigma_m(p) = \{-\infty\}$ とするものである。 $P_+ = P_+(m) = \{p \in \mathbb{P} \mid \sigma_m(p) > 0\}$, $P_- = P_-(m) = \{p \in \mathbb{P} \mid 0 \geq \sigma_m(p) \neq -\infty\}$, $P_{-\infty} = P_{-\infty}(m) = \{p \in \mathbb{P} \mid \sigma_m(p) = -\infty\}$ とする記号を用いる。

$$f^{-1}(v_+(m)) = \left(\prod_{p \in P_+} p^{\sigma_m(p)} \right)'$$

およそ

$$f^{-1}(v_{-}(m)) = \bigcup_{\mathfrak{p} \in P} (\prod_{\mathfrak{p} \in P} \mathfrak{p}^{\sigma_m(\mathfrak{p})})'$$

が示される。ここに \prod は有限積で、 \cup はあらゆる有限積に
ついでに和集合である。

素子 regular ideal の任意の集合 P とし

$$\sigma_P = \bigcup \{ (\prod_{\mathfrak{p} \in P} \mathfrak{p}^{-m})' \mid \mathfrak{p} \in P, m \geq 0 \}$$

によって σ の P 成分を定義する。この記法は通常のも
と違ふ。通常は、 P の P における余集合を P^c とするときは、上式の
右辺を σ_{P^c} で表わす。しかしわづらわづらの場合には、上記の記法
が便利である。 $\sigma_P \in \mathcal{O}$ であることが分る。

補題 5 $f^{-1}(v_{-\infty}(m)) = \sigma_{P_{-\infty}(m)}$

この証明には [4] におけると同様の準備をすればよい。

以上のことから、つぎの結果を得る。

定理 半群において、Asano order に含まれるものと同等
な、modular closure を持つ、任意の order に属するすべての
の正則集合は、積の交換可能性を無視すれば、つぎのように
一意的に分解される。

$$m = (\prod_{\mathfrak{p} \in P_+} \mathfrak{p}^{\sigma_m(\mathfrak{p})})' \cdot (\bigcup_{\mathfrak{p} \in P_-} (\prod_{\mathfrak{p} \in P_-} \mathfrak{p}^{\sigma_m(\mathfrak{p})})') \cdot \sigma_{P_{-\infty}(m)}$$

正則集合が積に閉じて半群をなすとき、それを 正則(部分)半
群 といふ。上の定理によつて、つぎの結果が導かれる。尚
これらのことはすべての環の場合に適用されるものである。

系1 正則半群 m はすべしつきの形で与えられる。

$$m = \left(\prod_{i=1}^m f_i^{\alpha_i} \right) \cdot \sigma_P \quad (\alpha_i > 0)$$

ただし, $f_i \in \mathbb{P}$, $P \subseteq \mathbb{P}$, $\{f_1, \dots, f_m\} \cap P = \emptyset$ である。とくに, σ を含む正則半群は, \mathbb{P} の任意の部分集合 P とするとき, σ_P で与えられる, それ以外には無い。ただし $\sigma_P = S$ とし, $\sigma_\emptyset = \sigma$ とする。

系2 正則集合 m の P ($P \subseteq \mathbb{P}$) 成分 $m_P = (m\sigma_P)'$ はつきのようにな分解される。

$$m_P = \left(\prod_{f \in P \cup \mathbb{P}} f^{\sigma_m(f)} \right)' \cdot \left(\prod_{f \in P \setminus \mathbb{P}} f^{\sigma_m(f)} \right)' \cdot \sigma_{P \cup \mathbb{P}}$$

系3 \mathbb{P} の任意の部分集合 P に対し Γ から \mathcal{M} の中への写像 $\varphi_P: \sigma \mapsto \varphi_P \sigma = \sigma_P$ は $\sigma \subseteq \varphi_P \sigma$ をみたす半群として準同型写像である。逆に, 写像 $\varphi: \Gamma \rightarrow \mathcal{M}; \sigma \mapsto \varphi \sigma$ が $\varphi(\sigma\tau)' = (\varphi\sigma\varphi\tau)'$ および $\sigma \subseteq \varphi\sigma$ をみたすならば $\varphi = \varphi_P$ なる $P \subseteq \mathbb{P}$ が存在する。

以上のことから, 種々の結果が導かれる。たとえは, 最近の Rehm による一連の結果を精しくしなり, さらにそれらの一般化など。しかし, それらについで他機会にゆずることにする。(1980年7月20日)

文 献

- [1] Asano, K. and Murata, K., Arithmetical ideal theory in semi-groups, J. Inst. Polytec., Osaka City Univ., 4 (1953) 9-33.
- [2] Asano, K. and Ukegawa, T., Ergänzende Bemerkungen ueber die Arithmetik in Schieftringen, Ibid., Osaka City Univ., 3 (1951) 1-7.
- [3] Maury, Guy, La condition "intéglement clos" dans quelques structures algébriques, Ann. scient. Ec. Norn. Sup., 3^e série, 78 (1961) 31-100.
- [4] Murata, K., On lattice ideals in a conditionally complete lattice-ordered semigroup, Algebra Universalis, 8 (1978) 111-122.
- [5] Murata, K., A note on arithmetics in semigroups, Proc. Japan Acad., 56 (1980) 133-135.